



○営業時間の変更について

令和7年1月31日(金) 15時まで営業

令和7年2月28日(金) 15時まで営業

「梅の宴」期間中の土曜日(2/1・2/8・2/15・2/22・3/1・3/8) 16時まで営業

令和7年3月31日(月) 13時まで営業(決算棚卸のため)

令和7年4月1日(火) 12時より営業(決算棚卸のため)

○みかん剪定講習会について

令和7年2月19日(水) 9時30分

参加される方は2月5日(水)までに湯河原営農経済センターまで申し込みをお願いします。

今回の開催場所は鍛冶屋地区になります。真鶴地区の開催予定はありません。

【果樹】

縮間伐及び園地環境の改善

高品質果実の生産、低樹高化のためには、十分な樹間距離が必要になります。密植園では、樹高が高くなり作業性が低下し、また日陰になるため高品質果実の生産ができません。剪定に入る前に縮間伐をして十分な樹の間隔を確保しましょう。併せて、園地の防風林等の手入れもしましょう。

【温州みかん】

施肥 1月~2月

○苦土タンカル 200kg/10a 酸性土壌の是正が目的です。

* 葉色の悪い園(微量要素不足の可能性あり)では、マルチサポート 80kg/10a を使用

整枝剪定(大津・青島) 2月中旬以降(厳寒期を過ぎた頃)から始めましょう。

大津・青島は大果系です。剪定量が多いと大玉果となります。

中玉果の生産のために隔年で管理方法を変えましょう。

① 表年の樹

ハサミ剪定を主体で主枝の切り下げ、下垂した枝の切返し、密生した夏秋梢の整理、強い夏枝の発生部からの除去等を行きましょう。剪定量を増やすと大玉果の原因になります。剪定量は1割以下を目安とします。

② 裏年の樹(昨年着果が多かった樹)

ノコギリ剪定を主体に樹形を整えましょう。樹形は3本主枝の開心自然形が基本になります。

剪定量が多いと、翌年大玉果が増えますので、剪定量は2割以下を目安とします。

③ 共通

薬剤散布や収穫の作業性向上のため、樹冠内部への入り口を北側に作りましょう。

強い内向枝・病害虫被害枝・枯れ枝は除去しましょう。

【湘南ゴールド】

収穫

12月以降3月にかけて糖度は上昇し、クエン酸濃度は低下する。外観にとらわれず、食味を確認してから収穫するが、凍害が心配される場合や地域では早めの収穫をすることもあります

貯蔵

貯蔵は貯蔵箱やコンテナを使用してから行う。湿度保持のため数枚の新聞紙で覆う。

コンテナを使用する場合は七分目の入庫量とし4~5段積みにて不織布で覆う。

この時期の貯蔵庫は入庫量が少ないので湿度保持に努める。

——【レモン】——

施肥 1月～2月

○苦土タンカル 200kg/10a 土壌酸度を適正に保つ。

——【う め】——

病害虫防除 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょよう。

1月

○灰星病(開花2部咲き期～満開期) ベルクート水和剤 収穫30日前 3回 2,000倍 50g/水100㍓

※ 灰星病の罹病枝が分からない方は、最寄りの営農経済センターにご確認ください。また、十郎を栽培している場合は、十郎の開花状況に合わせましょよう。

※ 灰星病で枯れた枝は開花期までに剪除して、園内に残さないことが重要です。

3月上旬～3月下旬

○かいよう病 コサイド3000 硬核期まで 2,000倍 50g/水100㍓

(葉害軽減のためクレフノン200倍 500g/水100㍓を加用する)

3月中旬～3月下旬

○アブラムシ類 スミチオン乳剤 収穫14日前 2回 2,000倍 50ml/水100㍓ 又は

チェス顆粒水和剤 収穫21日前 2回 5,000倍 20g/水100㍓

○灰色かび病・黒星病 ベルクートフロアブル 収穫30日前 3回 2,000倍 50g/水100㍓

※ 適期は落弁期(花びらの80%が散った時期)であるが品種により開花時期が異なるので状態に合わせて散布ましょよう。

——【キウイフルーツ】——

*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょよう。

病害虫防除 3月中旬(発芽前)

○かいよう病 ICボルドー66D 収穫後～発芽前 50倍 2,000g/水100㍓

○キウイヒメヨコバイ アグロスリン乳剤(劇) 収穫7日前 3回 2,000倍 50ml/水100㍓

剪定

剪定が終了していない園は、速やかに剪定を終わらせましょよう。

——【お茶】——

整枝 3月中旬(寒害がなくなるころ)

秋整枝をしていない園では、摘採面を揃えるため浅く整枝ましょよう。

秋整枝をした園で、遅れ芽や立ち葉が出ている園では再整枝(化粧ならし)をましょよう。

※再整枝の目的は1番茶の品質低下防止です。ごく浅く整枝ましょよう。深刈りは減収につながります。

施肥 施肥の前に敷き藁・敷き草等をよけておきましょよう。

春肥は、一番茶の芽の生育と品質に効果があり、茶樹はこの時期に平均温度が10℃以上になると根が動き始めて、樹体内の養分の転流が始まります。

分肥(2回に分ける)土と混和させると肥効が高まります。

2月下旬 足柄茶配合O33 3袋/10a 3月中旬に足柄茶配合O33 2袋/10aを1回ずつ施肥ましょよう。

定植 3月

新植及び改植する場合は3月に行います。3月の定植に合わせ2月に定植準備をましょよう。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用ましょよう。